

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		文化的景観の保存および再生における生物調査の視座確立と生物多様性保全との連携			
研究テーマ (欧文) AZ		Establishment of a viewpoint from ecological assessments for conservation and restoration of cultural landscapes, with reference to the conservation of biological diversity			
研究氏 代 表 名 者	カナ CC	姓)ナカオ	名)シロウ	研究期間 B	2008 ~ 2010 年
	漢字 CB	中尾	史郎	報告年度 YR	2010 年
	ローマ字 CZ	NAKAO	SHIRO	研究機関名	京都府立大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		中尾史郎・京都府立大学大学院生命環境科学研究科・准教授			
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>文化的景観の典型として、里山のため池群、ならびに山地森林地帯の霊場と参詣道を例として、固有生物群の時間的および空間的な分布を調査・推察することで、文化的景観ならびに固有生物の保全と環境復元において留意すべき要件を見いだせることを示した。その際、生物の移動性と固有性、ならびに生息環境の特異性に注目した指標が有効に活用できることを実証した。すなわち、生物の希少性や普遍性、あるいは象徴性や機能、そして生態系における位置に漫然と注目するのではなく、生物が依存している自然環境要素と人の行為との関係、ならびにその生物が分化派生した進化的歴史をも照会して、地域の地史的側面や人の土地利用の歴史と緊密に関連した標的種をよりどころとして視座を据えることが、地域固有の自然環境と文化の保全のために有効性を発揮すると思われた。一方、結果として、そうした生物は環境省および都道府県のレッドリスト選定種に相当し、自然環境保全上における意義も高いため、文化的景観と希少生物の保護や保全は同所で同時に計画および遂行することで、目標達成のためのコミュニケーション醸成や事業実施の相乗効果が期待できるといえる。ただし、生物として種(個体)を絶滅させない視点が重要というわけではなく、存否を含めた「当該地におけるその種のありさま」を把握して、その場所固有の生物群存続システムを保全する指向が肝となることを示唆できた。</p> <p>さらにまた、農業などの産業や宗教活動に根ざした人の活動が、資材運搬や園芸などを通じて外来生物の侵入や定着を促進し、地域特有の自然景観や農地景観を画一化していることや、経済的被害をもたらす事例の増加していることを把握できた。わが国でもオーストラリアやニュージーランドを参考に、園芸や緑化の行為をも網羅した侵入(外来)生物管理の視点を文化的景観の保全や復元に導入することも合わせて望まれる。具体的には街路樹や庭木、花壇の植栽も対象とすることである。</p> <p>現実存在する生物をよりどころにして、過去、現在および未来の姿を具体的に描くことによって、抽象的に語られる「文化的景観」を現実の数値に置き換えたり、それを平面上に空間配置して可視的にすること、さらにそれを達成するために必要な施工や管理の頻度や強度を具体化することで、行政および市民の相互コミュニケーションはより円滑にできるとともに、分野横断的な施策の同時実践によって「目標景観」や「総合的自然資源管理」の実現が可能になると考えた。</p>					
キーワード FA	文化的景観	生物保護	昆虫保全	景観保全	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	京都府と滋賀県における絶滅危惧昆虫3種の記録							
	著者名 ^{GA}	中尾史郎・増田倫士郎	雑誌名 ^{GC}	南紀生物					
	ページ ^{GF}	49~50	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	52(1)
雑誌	論文標題 ^{GB}	紀伊半島北西部におけるミヤマフキバッタ属とダイリフキバッタ属の分布							
	著者名 ^{GA}	中尾史郎・小林怜史・谷川寛樹・神吉紀世子	雑誌名 ^{GC}	南紀生物					
	ページ ^{GF}	66~69	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	52(1)
雑誌	論文標題 ^{GB}	紀の川流域の生息地におけるエサキアメンボのパッチ占有モデルによるメタ個体群存続の予測							
	著者名 ^{GA}	江種伸之・徳田裕二・中尾史郎	雑誌名 ^{GC}	環境システム研究論文集					
	ページ ^{GF}	印刷中~	発行年 ^{GE}	2	0	1	0	巻号 ^{GD}	(38)
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 ^{EZ}

Requirements for conservation and restoration of nature in cultural landscape and biodiversity at the landscape area were pointed out through two case studies on typical cultural landscapes: One is a cluster of irrigation ponds in *Satoyama*, and the other is woodland surrounding sacred sites and pilgrimage routes in the Kii mountain range. As a target, species (groups) indigenous to the area and with lower dispersal ability and narrower range of resources seem to be important for ecological assessments. In the present study, we focused on an endangered water-strider in wetlands and an endemic short-winged grasshopper in woodlands to establish viewpoints for conservation and restoration of cultural landscapes.

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	紀の川流域の生息地におけるエサキアメンボの空間分布							
	著者名 ^{GA}	徳田裕二・中尾史郎・江種伸之	雑誌名 ^{GC}	環境システム研究論文集					
	ページ ^{GF}	39~47	発行年 ^{GE}	2	0	0	9	巻号 ^{GD}	(37)
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}		発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^{HE}	

欧文概要 EZ

